



## 授業外学習に関するヒント

鹿児島大学 FD 委員会 FD ガイド WG

【発行／2013年11月】

学生が授業によって身につけるべき事項は、知識、学修習慣、論理的思考能力、倫理観、問題発見・解決能力等、いろいろあります。授業改善の手法は様々ですが、ひとつのやり方で全ての問題を解決する万能薬はありません。15回の授業それぞれがカリキュラム全体の中でどのような役割を果たすかを考慮し、適切な授業改善手法を検討すると良いでしょう。

FDガイド第6号では、本年度からシラバス記載が全学的に導入された授業外学習の指示と、学生による授業評価をもとに各教員が記載した授業改善メモから、授業外学習に関するヒントをまとめました。学生が質の高い学習を長時間行い、授業による学修成果を上げるために以下のヒントが役立てば幸いです。



1号

2号

3号

4号

5号

6号

7号

8号

9号

10号

### 1. シラバスの記載例

#### 授業内容を理解するための予習・復習

- ・本授業は数学と物理の知識が必要である。授業を理解するために、必ず復習をすること。
- ・授業概要や授業計画を参考に指定した参考書等で予習し、授業ノートを見直し理解が不十分だったところを参考書等で復習し補うこと。
- ・近代経済学は、積み重ねの必要な学問なので、予習、復習をやってもらうと理解が進むと思われる。予習は難しくても、積み残しのないように復習を心がけてもらうとありがたい。

#### 宿題レポート

- ・毎回宿題のレポートを課すので、十分な時間を費やしてきちんとしたものを提出すること。レポートの内容は平常点として成績評価に加える。
- ・授業の事前準備として、レポートを課します。

#### 資料提示

- ・授業中にパワーポイント等で使用した資料を Moodle の Web サイトに置きます。復習に活用してください。
- ・授業の資料を Web サイトにアップするので、ダウンロードすること。授業の前に資料と参考書に目を通しておくこと。
- ・それぞれの回に先立って予習用の資料をあらかじめ配布しますので、それを手掛かりに毎回の講義につき予習・復習を最低2時間ずつ行なってください。とりわけ、復習しても不明の点は、毎回配布する「学習連絡シート」に記入して担当教員に必ずお伝えください。

#### 思考力養成と関連知識

- ・能動的に取り組んでください。日々の生活の中で、受講したことを元に何か考えてみることは楽しいと思いますよ。
- ・講義の終了時に次回の講義テーマについて述べるので、インターネットや書物により、関連する知識を一つ以上得ておくこと。また講義の終了後に配布されたプリントや資料を再度読み直しておくこと。
- ・レポートは各事例に対して事実関係に対する理解と倫理上適切な判断を問うものである。授業中に与えられる情報に加えて、文献や報道情報等を活用して、事実関係や法規等についてよく調べた上で作成すること。



## 2. 授業外学習強化の実践例

### 双方向授業

- ・ 毎回全員に、授業の冒頭で、関心をもったニュースについて、その理由も含めて発言してもらうことを続けた。大人数の講義形式の授業では、学生全員に発言を求めることはできないが、今回は受講生が少なかったため、初めて取り入れた試みであった。
- ・ 節目節目に学生に作品分析を自由にさせる小レポートを提出させ、授業中にこちらからコメントをすることで、学期末レポートへ向けた準備ができるようにしている。
- ・ listening の教材を Moodle に up して、いつでも学習できる環境にした。また、この LMS (Learning Management System=学習管理システム) のフォーラムの機能を利用して、学生間、学生对教師間のフィードバックがすぐに明示できるように試みた。

### 評価基準との連動

- ・ 自宅学習を促すために、単語学習は、その場で終わらないように3週目ごとに復習のテストを実施した。TOEIC 演習では、教科書の問題を解き終えた後に、スクリプトを配布し、音読も毎回行なった。また、音読した2つのパートは暗唱させ、期末テストの1部に加えた。

### 学生の理解を深める

- ・ 事前に作品名を知らせてあらかじめ読んでくるように指示し、次回に小テストをしている。それによって予備知識が得られ、学生は授業内容についていきやすくなっていると感じている。
- ・ 学生の学力レベルに見合った授業を心がけている。期末試験だけでなく、中間試験も行い、二つの試験結果を総合して最終評価を行うようにしている。昨年度から、中間試験が不合格点であった学生に対しては、試験と同じ問題についてレポートを提出させ、その内容に基づいて、個別に指導をしている。期末試験については、再試験を行うとともに、再試験に先立ち、事前指導を行っている。これらの取り組みを通じて、低学力の学生の底上げを図っている。
- ・ 欠席した学生に対しては、授業範囲についてレポートを書かせる方法により、学習効果を補足するようにしている。

### 学生の知的関心を高める

- ・ 高校からの習慣なのか、学生は「公式」の暗記が物理の主目的と思っているフシがある。いわゆる「公式」は、暗記するものでなく、一度は自らの力で導くべきことを強調している。限られた講義時間内でそれを徹底することには無理があるので、教科書以外に「公式」導出の詳細を記した自製の講義プリントを配布し、意欲的学生の利用に供している。
- ・ 学習者の発表能力を高めるために、毎週、時事ニュースから自分が興味を持ったトピックについて、ごく短い口頭発表をさせ、キーワードの抽出、質疑などを行った。これは授業の冒頭に取り入れたが、効果が想像していたより大きかった。学生は日本の社会、文化、時事について多様な興味を抱き、また新たな発見をしているようであった。

#### 【鹿児島大学FD委員会FDガイドWG】

小栗 實(司法政策研究科委員)

松尾 智英(共同獣医学部委員)

安部 恒久(臨床心理学研究科委員)

佐久間 美明(教育センター高等教育研究開発部長・水産学部)